

質問 4 あなたは、覚せい剤を使うと、心や体に次のような害を与える可能性があることを知っていましたか。

(知っているものが複数ある場合は、そのすべてを教えてください)

1. 1回使っただけでも、神経が興奮し、眠気や疲労感がなくなり頭が冴えたようになった後、脱力感、疲労感、倦怠感に襲われたりする。
2. 1回使っただけでも、死亡することがある。
3. 乱用を続けると幻覚や妄想が現れ、時には錯乱状態になり、発作的に他人に危害を加えることがある。
4. 乱用を続けると精神障害を起こすことがある。
5. 自分の意志でやめられなくなることがある。
6. 乱用をやめた後でも幻覚、幻聴がおこることがある。
7. 知らなかった。

	1	2	3	4	5	6	7
男・16～19歳	38.8	12.2	67.3	61.2	59.2	46.9	6.1
20歳代	66.7	21.8	71.8	69.2	70.5	51.3	3.8
30歳代	67.9	33.3	80.8	80.8	83.3	60.3	3.8
40歳代	62.3	27.4	79.2	76.4	75.5	65.1	4.7
50歳代	55.7	25.0	77.9	73.6	70.7	57.9	2.1
60歳以上	57.5	17.2	62.2	62.7	57.1	44.6	9.0
女・16～19歳	47.9	4.2	77.1	54.2	70.8	43.8	4.2
20歳代	66.7	24.4	80.0	66.7	71.1	52.2	2.2
30歳代	70.0	33.8	77.7	76.9	82.3	60.0	2.3
40歳代	70.5	28.8	78.8	77.6	77.6	59.6	2.6
50歳代	62.6	26.2	74.4	71.3	68.7	53.8	3.1
60歳以上	37.1	12.7	56.8	61.5	54.0	36.6	11.7

慢性的な毒性については危険であるとの認識は高いが、急性の毒性についての認識は低い傾向がある。男女とも16歳から19歳と60歳以上が危険性についての認識が低くなっている。どちらも知識が欠けているためであると思われるが、16歳から19歳は、覚せい剤の危険性について学ぶ機会がなかったためだと思われる。60歳以上は、これまでに情報を得ようと思えば得られたのであることから、覚せい剤は自分とは関係ない別世界のものと思いき、知識として吸収してこなかったためであると思われる。分からないとの回答が他の年代と比べて多いことも、無関心さを表しているものと思われる。

Fig.4

質問4(性・年代別集計)

